

支部だより

パリ外語会近況

沼田睦子 (F昭44)

80年代の一時期には、先輩諸兄の音頭で毎年のように開かれていた同窓会も、95年を最後にすっかり鳴りをひそめ、とりわけ、2000年1月、東外大・国立政治学研究院交流協定調印のため中嶋学長(当時)ご来仏の好機に、学長・在仏同窓生懇親会が実現に至らず、せめて支部として定住所を、との本部のご意向を受け、この度、支部をお預かりいたしました。

名簿更新のため邦字紙に広告を掲載、22名の方から回答が寄せられました。折しも田島先生ご夫妻が来仏されたのを機に、錫村寛海氏(F昭44、トヨタモーターヨーロッパ)がシャンゼリゼのトヨタ自動車ショールームを会場に提供、9月19日、18名の参会を得て、実に6年ぶりの同窓会を開き、先生から、府中新キャンパス移転、創立百周年記念会館オープンという二大慶事を、資料と共にご説明頂きました。

久保達哉氏(F昭62、JSRエレクトロニクス)は遙々ブリュッセルからの出席でしたが、ニューヨークテロの取材のため現地に飛んだ日本テレビ特派員今泉浩美氏(D昭61)、テロ後相次ぐツアーのキャンセルでてんやわんやのJTB清水克己氏(E昭61)が欠席でした。

上記諸兄に加え(敬称略)、西村浩太郎(F昭37、大阪外大退官、哲学)、坂田一彦(S昭41、ホンダモーターヨーロッパ)、宮内祥之(I昭41、ユーロペンテル、欠席)、坂口功一(F昭44、自営、ワイン貿易)、鳥居正文(F昭47、青山学院大学)、斉藤総子(F昭49、日仏バイリンガル教育)、藤栄俊孝(F昭53、日産ヨーロッパ)、岩田好弘(D昭57、フランス菓子製造販売)、林正和(F昭58、フリージャーナリスト)、遠山景子(F昭61、通訳翻訳)、伊藤義博(S昭64、日産ヨーロッパ、欠席)の方々の各界での活躍は、私が初めて出席した四半世紀前のパリ同窓会から変わりありませんが、今回は、千田多美(F平4)、小川あゆさ、関美峰、長島愛(F平9)、吉澤雅樹(F平11)の平成卒組が既に高度の専門職を目指し、それぞれ現地就職、企業派遣、

勉学で若々しく颯爽と研鑽をつんでいる姿に羨望と時代の移りを感じました。

最後に、私が翻訳編集に携わっている、外務省予算・民間刊行による仏語圏向け日本の論調紹介誌Cahiers du Japonでは、他の英・西・韓・中国版と共通の編集委員として、日銀副総裁ご就任直前の1年半ほど、藤原作弥氏(F昭37)を仰ぎました。また、これまで編集長だった舩添要一氏が参院初当選後辞任、後任には母校教授渡邊啓貴氏(F昭53)を迎えます。

大学対抗ゴルフで快挙

清水暢之 (I昭46)

シンガポール支部の明るい大ニュースです。昨日10月7日第5回大学対抗ゴルフが開かれました。5名の出場者を決めるのに毎年予選会まで開く早慶を始めとする大手私大に比べ、5人を何とか集めて「参加に意義あり」スタイルだった我々外語。びりになったことも、女子大連合に敗れたこともありましたが、今年も何とか参加できる4人(5人参加で1人足きりが原則)を揃え出場。4人で参加したのは出場27校中我が校だけでしたが、終わってみれば4人ともほぼハンディキャップ通りのラウンドで総合4位。優勝した立教に5打差、3位早稲田に1打差。優勝常連の慶応には6打の差をつけて勝ったのです。来年皆が今年と同じようなラウンドができるとは思いません。それはゴルフをやる方なら皆さんご承知のこと。この快挙を達成した4人は、春日井浩(U昭44、NEC Business Coordination Centre)、清水暢之(I昭46、Creative Tours, Singapore)、武石伸一(D昭58、OKI Semiconductor)、葉山茂樹(H平7、Japanese Chamber of Commerce & Industry, SIN)でした。

ホーチミン支部より

杉山博 (D昭47)

近年だいたい改善されてきてはいるものの、医療設備を筆頭に日常生活の苦勞がまだまだ多いことから、当地での一般的な企業の駐在期間は

平均的には3年間~4年間となります。従って当地の外語会ではメンバーの入れ替わりが大変頻繁なのが特徴と言えます。

日本人の駐在員が1500名と言われているホーチミンのOB+OG会の中で大阪外大と東京外大のOB、OGからなる「ホーチミン外語会」の総勢24名は恐らく最大派閥?と思われる。出身学部もベトナム語はほぼ半分でその他は欧州の言語専攻の人が多く多岐に亘っています。

2001年度も2月、8月、9月に送別会などにより有志(通常10人前後)が集い「ベトナム語談義」や「ゴルフ談義」に花を咲かせました。

近年日本では「ベトナムブーム」が続いていますが、その理由は①食事が日本人の口に合う②雑貨を中心に物価が安い③日本が失ってしまった戦後の活気や家族、親戚などの一体感が強く感じられることなどではないでしょうか。

駐在員の方々も公私を問わず来越されるお客様のもてなしとして「ベトナム料理」をご一緒する機会が多いのですが、ほとんどの方は「ちょうどベトナム料理が恋しくなった頃だ」と喜んで「ベトナムミュージック付き」のレストランに付き合えること、またご馳走されたお客様が口を揃えて「ベトナム料理は旨い!」と言われることからベトナム料理が日本人の口に合うことが証明されていると思います。箸を使うことや南北に長い地理的条件に加えて中国の影響とは思われますが「ここかしこ」に日本との共通点を感じられるのも旅行者の評判が良いことの一因ではないでしょうか。

旅行者の方々には「ホーチミンだけを見て"ベトナム"を語るな」ということです。もともと歴史的にも北(大越)と南(廣南)は異なる国であったこともあります。現在でも言葉も生活習慣もかなり異なります。せめて北のハノイ+南のホーチミンあるいはハノイ+中部の古都(フエ、ホイアン等)、またはホーチミン+中部の古都というように2ヶ所を組み合わせてご覧かないとベトナムに行ってきたとは言えないと思います。日本人はベトナムという未だ「ベトナム戦争」の暗いイメージと「不衛生で汚い町並み」に凝り固まった方々が多数派と思いますが、決してそのようなことがないことをご自身の目で確かめるべく是非一度ご来越下さい。

台湾支部から

台湾東京外語会とC35同窓会が合同で

2000年初め、東京でC35同窓生と懇談の折、秋にはC35の同窓会を台北で行いたいとの計画を知り、帰台後、当地外語会古賀正人名誉会長、林綺雲副会長とも相談の上、10月18日を台湾/C35同窓会の合同宴会としました。

先ず10月15日にC35同窓会を台北国賓大飯店で行いました。1996年11月10日に上海で挙行した第一回海外同窓会に次ぐ試みで、今回は夫妻同伴の主旨にて参加を募りました。参加者は飯塚博己、市原弘之夫妻、榎本英雄夫妻、加島淳一郎夫妻、河合信彦夫妻、鬼頭淳夫妻、杉山與志明夫妻、田畑光永・佐和子夫妻、伴野朗夫妻、平石哲郎、藤田武彦、松井茂の諸兄弟に現地参加の奥住鮎子も参加し、卒業後41年目の同窓会を賑やかに開催、台北一の四川料理を台湾南投県埔里産の紹興酒を味わいながら、久しぶりの古い仲間との昔話に花が咲きました。

台湾東京外語会は会員数52名(日本人17名、台湾人35名)の国際的同窓会で、C特15李增禮先生より始まり、平成12浅川友貴まで、他に例を見ない、東京外国語大学の発足の理念に沿っ



台湾東京外語会とC35同窓会が合同で

た集まりであり、名誉会長古賀正人氏(IM昭24)他の諸先輩が長年培った素晴らしい親睦機関であります。18日には斎藤攻(Po昭41)、林綺雲(J昭49)、大木義弘(C昭50)、柴田明(C昭51)、楊麗珮(J昭57)、等々力研(C昭61)、高誠正(J昭62)、吉川直矢(C平3)、総幹事・洪耿國(J平3)、簡文賢(J平4)、井上山美(C平6)、楊淑鐘(J平6)、蔡元明(J平6)と大勢の同窓生が、C昭35の先輩達との懇親の為、

湖南料理で有名な湘園に集合、合同の宴会となりました。C35側は現地合弁会社社員との懇談会に出席する加島淳一郎夫妻を除き、全員が参加、台湾の若い同窓生達と円卓を囲んで日本では数少ない湘菜に舌鼓を打ち、談論風発、紹興酒の空き瓶を並べながら、楽しく歓談しました。

台湾は陳水扁新政権発足後、少数党政権による政治運営の不手際、世界経済、特にアメリカ経済の失速と台湾企業の大挙大陸進出による台湾の空洞化等により、本年第4四半期にはマイナス成長に落ち込む大きな危険に直面しておりますが、バイタリティーと進取の気象に富む民族性は、その難局を切り抜ける為に、必ずや方策を講じ、再生していくと信じていますので、学兄諸子のご理解とご支援を誌上を借りてお願い申し上げます。次第です。(台湾東京外語会会長)

大分県支部同窓会

幸 郁 (IM昭57)

平成13年11月10日(土)、大分市内の割烹「澤家」で、東京外国語大学大分県支部の同窓会が開かれた。当日は、県内在住の同窓生36名中16名が参加し、午後6時開会、幸幹事(IM昭57)の欠席者近況報告の後、家田啓三さん(F昭16、83歳)の挨拶、阿部比多生さん(R昭24)の乾杯の音頭で始まり、新人4人の紹介と自己紹介を交えながらの近況報告と、名物のしゃも料理に舌鼓を打った。NHK副局長田村正三郎さん(S昭47)の放送秘話、大分大学の日高貢一郎さん(M昭47)の方言学の話や、中溝朋子さん(GD平8、日本語)のコロンビア情勢の話などあり、時を忘れて笑い歓談した。最後に最年少の阿南万季代さん(Ma平7)の一本締めで、楽しかった会も来年の再会を約しつつ散会した。



大分県支部同窓会 割烹「澤家」で

2001年度東京外語会 福岡支部総会の報告

森山英治 (C昭52)

恒例の福岡支部総会は、11月25日(土)、福岡市天神の中華料理店「平和楼」にて開催されました。今年も、本部より支部連絡委員会副委員長の石原隆良氏(D昭31)と、発足間もない熊本支部より支部長の山内良一氏(E昭34)のお二人を来賓にお迎えし、外語会の縦と横の絆を実感することができた総会でした。

物故会員(河田雅也先輩E昭16)への黙祷を全員で捧げた後、田所信成支部長(Th昭19)の挨拶で会は始まりました。支部活動の報告とその承認の後、卓話として、来賓の石原氏より、「外語会の現状と母校」というテーマで、新キャンパスの様子や大学再編の状況などについて語って頂きました。

遠路佐世保市より参加した遠田公夫氏(Ic昭47)を含め、総勢13名というささやかな集まりであるだけに、家族的な雰囲気の中で、スッポンその他の美味・珍味を肴に和洋中の酒を酌み交わし、大いに歓談を楽しむことができました。



家族的な雰囲気でき歓談した福岡支部総会

また宴席の途中で、出席者全員にそれぞれ近況報告をして頂き、会員諸子のいまだ横溢する活力や活躍ぶりの一端を窺い知ることができました。また、このところ出席者が減少し、若い世代や女性の参加がみられない点に話が及び、今後、幹事を中心に、支部同窓会活性化の方策を講じることの必要性を確認しました。

最後に、全員で立って、怪しくなった歌詞を記憶の底からたぐり寄せながら、「キンキラ節」を大きな声で歌い上げ、来年の再会を約して会を閉じました。(福岡支部幹事長)